

粕谷和夫の観察日記より。アメリカスミレサイシンというすみれの花に止まっていたヤマトシジミです。11月22日東京・檜原村数馬での出会いです。数馬は、標高約800mの高冷地で1月下旬という初冬の季節にスミレの花とシジミチョウがいたということに驚きです。季節が狂ってしまったのでしょうか。

# 紅葉台



# 新聞

第110号

2023年

12月30日

発行人：関谷 孝

## 粕谷和夫の観察日記



神奈川・大磯の谷戸を歩いていたら開花中のシロダモが目立ちました。翌日、八王子・清水入り緑地で野鳥の定期カウントをしていたら赤い実をつけているシロダモに出会いました。（これは1年前の花が実ったものです）昔は、この実の油からロウソクが作られたそうですが、野鳥も好んで食べます。



ユズリハです。古い葉が上を向くところから、世代交代、子孫繁栄の木とされています。葉の赤い柄が目立ちます。某公園の一角で青紫色の実がついていました。小鳥がこの実を

好んで食べ、種をまき散らすため、幼木があちこちで見られます。

♥よくお正月の飾りに使われています。子孫繁栄の意味があるからなのでしょう。

## 拓殖大学の散歩復活！



11月になって、拓殖大学もこれまで通り地域の人たちが自由に入って、散歩することが出来るようになりました。コロナ禍で2020年から2023年の4年間は校内に入ることが出来ませんでした。（但し、2023年の後半は日曜祝日で学生がいないときは入れました。）

紅葉台シニアクラブは、コロナ禍前の毎週火曜日に「チューズデーウォーキング」と言って拓殖大学の散歩をしていました。スタートは、北門から続く長い道を歩きます。ここは、春には桜が満開の道になります。青空に広がる一面の桜は本当に見事です。卒業生や新生が晴れやかに歩いたことでしょう。その後は、大きな陸上グラウンドを元気に走る学生を見ます。かつては箱根駅伝にも出場していましたので熱心に練習していました。最近残念ですが、それでも今年は女子選手でオリンピック候補がいるとか聞きます。近くの調整池には、時々カワウやカイツブリがいたこともあります。秋には紅葉の木々が池の周りを囲んでそれは、それは美しいです。正門に向かってバスが入ってくる道沿いも太陽の光が紅葉を輝かせ目を見張るほどです。林の中には、可愛いリンドウの花がちょこんと顔を出しているのを発見したこともありました。



また、校内中央にはひととき目立つ建物「恩賜記念館」があります。自由に入ることが出来ます。とても綺麗で荘厳な建物です。創立者の桂太郎公爵

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

の肖像画や拓殖大学の歴史など貴重な資料が展示されています。「国際大学のバイオニア」として社会に貢献する人材の育成を建学の理念としています。（そのためこのキャンパスには国際学部があります）。隣にはかつては池があって大きな鯉がたくさん泳いでいましたが、今は白い石が敷き詰められていて池がなくなってしまいました。秋にはカリンの実が落ちていたのを拾ってはちみつ漬けにしたこともあります。昔から咳止め効くと言われています。

そこからどんどん奥に向かって歩いていくと、野球場やサッカー・ラグビー場があります。その2つのグラウンドの間には銀杏並木があり、シンメトリーの美しい景色にうっとりします。はらはらと黄金の葉が落ちて辺りを黄色の絨毯にする様も風情を感じます。



突き当りは、私が目指す馬場です。今では5頭の競技馬が馬房に飼われています。毎週人參をたくさん持って行きました。馬は近くで見ると大きな瞳と逞しい体に圧倒されます。馬は賢いですよ。久しぶりのご対面でしたが、名前を呼ぶと小屋から顔を

出します。一斉にこちらを見ます。ベルディーは、長いことここで飼われていますが、ちゃんと名前を呼ぶと鼻を鳴らして来ます。温かい口や鼻筋をなでると嬉しそうです。こちらの気持ちが伝わるかのようです。学生が体を洗ったり、餌を上あげたり、小屋の掃除をしているのに出会います。毎日の事なので大変でしょうということ、

「馬が好きなので楽しいです。」と返ってきました。馬にも相性や競技が上手とか言うことを聞かないとか個性があります。よく「馬術で心を癒す」セラピーがあると聞きますが、馬には人を癒す力があるように思います。そういう自分も馬に惹かれてきています。帰りは、一番奥にあるカレッジハウス扶桑の学食で安くてボリュームのあるランチを食べます。シニア散歩もここまで来るとホッとして楽しい時間です。この学食前の桜並木は、春には桜のトンネルになります。拓殖大学に来ないと見ることが出来ない風景です。八王子の桜の名所。穴場です。初めて来たときは感動するほどの美しさでした。

アーチェリー場を抜け、畑で作物を作っているところにはいつも荒木さんがいました。国際学部の農園があり、留学生が農業体験をする手伝いに来ていました。おしゃべりをして、時間があると近くの小高い山の頂上にある「拓殖招魂社」に行くこともあります。ここは、拓殖大学の建学の理念が込められた場所です。脇光三先輩をはじめ御霊を祀っています。別世界の空気を感じます。ここまで一回り2時間近くをかけてゆっくり散策します。皆さんも季節ごとの発見がありますのでお出かけになってみるのはいかがでしょうか。